

連合愛媛 第33回定期大会

第33回定期大会スローガン

社会を新たなステージへ、 ともに歩もう、ともに変えよう

～ 仲間の輪を広げ 安心社会をめざす ～

連合愛媛の第33回定期大会が11月17日(金)、愛媛県勤労会館において開催されました。2020年に確認された新型コロナウイルス感染症以降は縮小開催としてきましたが、4年ぶりに通常開催とし、ご来賓には連合本部から北野副事務局長をはじめ、中村愛媛県知事、野志松山市長、友好政党代表者、各事業団体代表者、連合愛媛元会長・元事務局長と、役員・代議員・特別代議員等150名が出席しました。

はじめに主催者を代表し菊川会長は、①組織強化・拡大と集团的労使関係について ②2023春季生活闘争および愛媛県最低賃金 ③政治関連 ④新年度の運動方針等について触れ、「社会が変化するスピードに取り残されることなく、誰一人取り残されることのない社会の構築に向け、スピード感を持って取り組みを進め、コロナ禍の経験を踏まえ、未知の課題に対して臆することなく、果敢に挑戦していこう！」と力強くあいさつしました。

次に報告事項では、①2023年度一般活動報告 ②2023年度会計報告ならびに会見監査報告を行い、満場一致で承認されました。引き続き審議事項では、①2024年度活動方針(案) ②2024年度予算(案) ③2024年～2025年度役員(案)を提起し、満場一致で承認・採択されました。

なお、今大会で退任されました、JP労組の石川前副会長、情報労連の吉成前副会長、JP労組の藤田前執行委員、自治労の玉井前執行委員、電力総連の高谷前執行委員、情報労連の金並前執行委員、国公総連の和家前執行委員、全自交の宮岡前執行委員、メディア労連の丹生谷前会計監査の方々には、今日までのご尽力に対する感謝と、今後のご活躍をご祈念申し上げ、最後に菊川会長より団結ガンバロー三唱を行い、閉会しました。



議長団 左:水野聡志(私鉄総連) 右:立石則和(JAM)

執行部を代表してあいさつをする菊川会長



退任あいさつをする金並泰志(情報労連)



あいさつをする新執行部

●●● 連合愛媛 2024～2025年度 役員 ●●●

役職名	氏名	産別名	単組名
会長	菊川 泰	情報労連	NTT労働組合四国総支部
	曾我 一樹	UAゼンセン	UAゼンセン愛媛県支部
	中川 美保	J P 労組	日本郵政グループ労働組合愛媛連絡協議会
	中塚 広之	自治労	全日本自治団体労働組合愛媛県本部
	岡本 武	基幹労連	別子労働組合
副会長	小川 剛	電力総連	四国電力労働組合
	竹筒平 貴隆	電機連合	電機連合愛媛地域協議会
	明石 晶博	情報労連	NTT労働組合四国総支部
	泉 浩二	J A M	JAM井関農機労働組合中央本部
	宮崎 司	私鉄総連	伊予鉄労働組合
事務局長	白石 浩司	電力総連	四国電力労働組合
副事務局長	寺田 淳泰	私鉄総連	伊予鉄労働組合
	上甲 章史	電機連合	PHC労働組合
	村井 純一	UAゼンセン	東レ労働組合愛媛支部
	白石 岳	UAゼンセン	クラレ労働組合西条支部
	萩岡 聖士	UAゼンセン	いよてつ高島屋労働組合
	坂田 真二	J P 労組	日本郵政グループ労働組合愛媛連絡協議会
	森口 貴之	自治労	全国一般愛媛地方労働組合
	竹本 良賢	基幹労連	住友重機械労働組合連合会愛媛地方本部
	谷村 春一	電力総連	四国電力労働組合
	高岡 敏弘	電機連合	東芝E Iコントロールシステム労働組合四国支部
執行委員	松木 光晴	情報労連	情報労連愛媛県協議会
	山川 宏明	J A M	JAM川之江造機支部
	砂田 篤志	私鉄総連	瀬戸内運輸労働組合
	三好 謙一郎	紙パ連合	丸住製紙新労働組合
	北川 博貴	運輸労連	全日通労働組合四国支部松山地域協議会
	渡辺 敏彦	交通労連	四国西濃運輸労働組合
	山本 鉄平	J R 連合	JR四国労働組合愛媛支部
	清水 駿	海員組合	全日本海員組合愛媛支部
	上田 博之	J E C 連合	太陽石油労働組合
(女性枠)	水田 明子	J A M	JAM井関農機労働組合中央本部
(女性委員会枠)	三浦 香織	UAゼンセン	帝人労働組合松山支部
	高橋 保博	基幹労連	住友重機械労働組合連合会愛媛地方本部
会計監査	三品 宏治	メディア労連	日本放送労働組合四国支部
	藤尾 泰成	全労金	四国労働金庫労働組合愛媛支部

※網掛け部分が新任



2024年度連合愛媛 政策・制度

愛媛県に対する「要求と提言」

～ 5つの柱 31項目について要求を行う～



11月14日(火)愛媛県庁議事堂(委員会室)において2024年度の「政策・制度要求」について、菊川会長・宮崎政策委員長をはじめ8名が出席し要請を行いました。

冒頭、菊川会長より「働くことを軸とする安心社会の実現をめざし、すべての労働者の生活向上と生活者の視点から、安心・安全な生活環境の維持・整備などを踏まえた要請をメインにしている。短い時間ではあるが、幅広い意見交換をお願いしたい」とあいさつしました。

その後、5つの柱・31件の要請を行い、要請内容の補足では、村井委員・小川委員・山本委員から県内企業に対するパートナーシップ構築宣言の働きかけや、少子化対策に関する課題、さらには、安心できる町づくりと社会インフラの整備について、意見交換を行い、今回の要請内容を踏まえながら、2024年度愛媛県の政策に反映していくことを確認しました。

要請の抜粋 5つの柱 (31項目)

- I. 適正な取引慣行の実現…………… 4項目
- II. 地域雇用の拡大と労働環境の整備…………… 4項目
- III. ジェンダー平等政策…………… 3項目
- IV. 子ども・子育て支援等の充実…………… 7項目
- V. 安心できる町づくりと社会インフラの整備…………… 13項目

連合愛媛 2024 ユースフォーラム

「久万高原町の自然を感じ、豊かさを守ろう」

11月3日(金)にSDGsの一つである『陸の豊かさを守ろう』をテーマに、今後の多様な諸活動へ活かすことを目的とした学習会を開催し、青年委員会・女性委員会役員及び各構成組織の組合員34名が参加しました。

はじめに、面河山岳博物館(学習会&フィールドワーク)までの移動時間を活用し、久万高原町ふるさと創生課のジョーンズおかり氏による「自然豊かな久万高原町のふるさと創生について」の講話を受けました。

次に、面河山岳博物館では、石鎚山系に生息する動植物や岩石、石鎚山岳信仰・登山史などの紹介がありました。また、フィールドワークを通じて、実際に自分の足で歩き、面河溪や石鎚山などの歴史に触れることができました。その後は、久万高原ふるさと旅行村で、各グループに分かれ食事をとりながら、「仕事のこと、活動のこと、今日学習したこと」など話題が尽きることなく、異業種交流をはかることができました。

参加者からの感想では「今回のテーマである『久万高原町の自然を感じ、豊かさを守ろう』の中で、たくさんの人々の活動が具体化し、さらに向上させる方法は何なのかを考える機会となり、自然を保護しながら変化を促進させる難しさを実感できました。今回得た知識を組織や職場に持ち帰り、共有し、様々な活動に活かしていきたい」と、有意義な時間を参加者と共有することができました。

